

語るいとなみ・書くいとなみ

ここに、五人の執筆者によって、右の題に即して論文が著され、それぞれの論文が「共ニ競演」することになった。ここから、さらに「読者」たちもが加わって、さまざま「共ニ競演」の可能性が顕れ、また、より生産的な研究が切り拓かれていくならば、幸いである。

(編集委員会 文責・高木史人)